第1ステップ：精密文字起こし（全文記録）

大タイトル：林業を市政の「幹」に据えた振興策と、実効性ある人口減少対策の組織体制を問う

議長（桂藤和夫）
これより令和7年第6回庄原市議会定例会を再開いたします。ただいまの出席議員19名であります。よって直ちに本日の会議を開きます。
本日の会議におきまして、写真撮影、録音、録画を許可しております。これより日程に入ります。
日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議規則第88条の規定により、議長において1番松森潤平議員、2番青山学議員をそれぞれ指名いたします。
日程第2、一般質問を行います。通告に基づき、順次質問を許します。福山権ニ議員。
福山権ニ議員
おはようございます。議席番号17番、福山でございます。
通告に従いまして、2点について市長のご所見を伺いたいと思います。
第1点目でございますが、第3次庄原市長期総合計画案が市民参加のもとに協議をされていますが、この計画案策定の段階で、庄原市の林業振興について市長はどのように位置づけ、検討をされているのか伺います。以下は質問席で行います。
市長（八谷恭介）
皆さん、おはようございます。それではご質問にお答えをいたします。
第3次庄原市長期総合計画案につきましては、9月29日に開催いたしました議員全員協議会において、将来像として「安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来がつながっていく街」をお示ししております。この将来像の実現に向け、安心な暮らしの充実、将来に希望がつながっていく仕組みづくり、市民の期待に応え将来を担う人的資源の育成の3つの柱のもと、41の施策案を設定し、計画策定を進めているところでございます。
林業振興につきましては、「安心な暮らしの充実」の柱に「なりわいと里山環境の維持」として位置づけ、森林管理を適切に行い、森林の持つ公益的機能が持続的に発揮できる環境を整備することで、地域社会の安全安心に寄与することを目指しております。
また、「将来に希望がつながっていく仕組みづくり」の柱には「林業の振興」として位置づけ、木材の生産量と生産額の拡大を図り、林業の基幹産業化を目指します。こうした施策の取り組みを進め、林業が地域経済を支える重要な産業としての役割を再び担うことで、持続可能な地域の発展に寄与することを目指してまいります。
福山権ニ議員
市長、実は今、答弁をいただきましたけど、これまで歴代といいますか、古くは中川市長の当時から今日まで、林業に関する計画、思いというのは各首長の方がされました。概ね今、市長が答弁されたような内容と、おそらく大差はなかったというふうに思います。これまでの林業振興の計画と、これからの長期総合計画の中で市長が取り組もうとされておる林業振興の位置づけといいますか、中身は大きくこのように変わったとか、いや同じようであるとか。変わったのならどこを、というふうなことは今、思いがあるんでしょうか。市長の思いはありますか。
林業振興課長
ご質問にお答えをいたします。先ほど市長答弁にもございましたけども、現在、長期総合計画の策定を進めております。その長期総合計画に基づいた施策につきまして、現在、仮称でございますけども「庄原市林業振興アクションプラン」というものを策定を進めておる状況でございます。このプランの中で、先ほど市長の答弁にもございましたけども、森林の持つ公益的機能の持続的に発揮できるこ

と、それから林業の基幹産業化に向けた取り組みについて重点的に取り組むことについて、現在策定をしております。近々には、また議員さんの方へもお示しができるというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいというふうに思っております。
福山権ニ議員
今、林業振興課長が答弁されたように、今、第3次長期総合計画は十分に検討されておるというふうには思います。その検討されておる中身で、執行者の原案として、市民の声をたくさん聞くというのは、一つはまちづくり条例の基本ですから、それはそれで当然だろうと思いますが、問題は市長の意志がどのようにそれに反映し、市長はその計画に皆さんの意見は聞くけれども、どのようにこれを進めるかということについて、今、位置づけはよくわかりました。全体を検討してると。市民生活が安全なるように、いろんな森林の機能はあると、発展をさせていくというのは、これまでの提案と企画とあんまり変わりはない。当然の今、林業整備計画、整備計画も既に今年から10年間始まっておりますけども、その中にも十分に書いてあるんですが。
ただ私が申し上げたい、質問させてもらいますのは、今年の4月に市長選挙と市議選が同時に行われまして、今年はちょうど庄原市の10年間の長期総合計画が作られる。で作って5年間、前期・後期と分かれて検証するという時期に当たっている。そう意味では、来年度の予算編成をする時期、長期に基づいて来年度の初めての市長が予算提案をされるという流れで言うと、市長、これは市長にとってまたとない機会、チャンスではないかというふうに思っておるわけですよ。それで、そういう時期に今ある時に、今回のこの質問に臨む時に、非常に期待をするというふうに思ってます。
追加質問として不十分かもわかりませんけども、市長がこの第3次の長期総合計画に関係する提案をされるという市長として、林業ということについて言うと、市長の専門分野でもありますし、この林業が果たす役割がこの庄原市の林業に関係する面積といいますか、素晴らしい広大な面積。しかも木材も非常にたくさんいいものがあるという非常にいい条件があります。で、林業を中心にといいますか、林業を一つの柱にするということについては、非常に市長の思いが強くあるんではないかというふうに考えてきたわけですよね。
それで、今の課長答弁によりますと、全く正しいんですけど、大体こう全体を林業の総体として、こういう条件であるというのはありましたけど。さて、市長がこの林業に思いを寄せる。そういうことについては、もう一歩進んで市長の思いはありますかね。
企画振興部長
ご質問にお答えいたします。先ほども市長答弁にありましたように、施策の柱としては2つございます。で、2つ目の柱として、林業の基幹産業化を目指していきたいということを市長答弁しておりますけれども、これまで本市におきまして林業は基幹産業ということで、古くは薪炭の生産から、用材の生産から市民を支えてきましたけれども、現在そうした生産額がですね、他の産業と比べますと、かなり縮小してきているという状況を踏まえまして。これらは事務レベルもそうですし、市長・副市長ともしっかり現状を把握しながらですね、林業をどうしていくんかというところも協議させていただいておりますが、この現状を踏まえて、先ほども市長答弁にあったように、基幹産業に再び持ち上げていこうというところで、どうしたらそれができていくのかというところを、第3次長期総合計画、それに基づく、仮称となりますけれども、林業振興プランの方で考えたものをですね、近々にはお示しをしていきたいと思っておりますので、ご期待いただければというふうに思っております。
福山権ニ議員
強く期待をしております。それで、林業を産業として活性化させるというのはよくわかります。問題は、そこの部分は、林業に限らず第3次の長期総合計画を今考えられてる中身については、庄原市のこの行政機関が全力でやってらっしゃいますから、ここがいいとかここが悪いというなかな構想部分、全体の基本計画でここが間違いだっつうことはほぼないだろうと思うんです。私の感じですけど。

6月、5月の市長の議会に対する、市民に対する挨拶とか、あるいは6月の所信表明の演説、それを聞きまして、非常に綺麗な文章で一点の曇りもないような素晴らしい方向性を示されました。それはそれで十分に評価できるもんだろうと思うんですが。問題は、今度の市長はこれまでの市長とは全然違うというふうに思ってます。
今、答弁がありましたけど、実は市長も昨年の10月に立候補を決意されて、自分の思いがあり、市長選挙を戦われて、そして圧倒的な支持を得られました。その時に、当時の市長が市民に公約として約束されたことについては、4点の施策の中で第1点として「すぐにでもできるのは農林畜産業です」と。稼ぐエンジンとしての魅力ある農林畜産業へと脱皮すると。これが第1の問題です。これは、この公約を、これはもちろん後援会の資料ですけども、選挙公報については少し幅が広いですが、これを読んで市長は圧倒的に勝利をされました。ということは市民のこれが強い要望とマッチしたんだろうと、マッチしたに違いない。
で、八谷市長は林業部門が最も知識が深い、経験が深いというふうに個人的には思いますし、そうだと思います。東城なり西城なり、緑森林組合、もちろんこういうのもありますが、連携をしながらそういう仲間と一緒に、すぐにできる農林、そうやってやるんだと、できるんだとおっしゃっておりますので。この長期総合計画の中で市長は林業について、活性化もありますけど、こういうふうにやって林業を大きな柱にするんだと。非常に素晴らしい方針だと思うんです。これまでの市長とは違ってこれをやるんだということの提案だと思いますので、そういう意味で、長期総合計画10年で長いですけども、しかし、この4年間あるいは3年間、自分はこれをやるんだということがこれで表明されると思うので。そういう意味で、長期総合計画の個の中身は別ですが、とりわけ林業について市長の思いを聞かせていただきたい。で、そのことは決して市民に反対されるわけでもないし、大きな支持を得ると思いますし、そのことが今、庄原市政としてこれまでと違って重要な柱になるんではないか。市長は「施策の幹」というふうに言われております。そういう庄原市政の、八谷市政の幹になるもんだというふうに強く期待をして、大賛成をするわけですよ。で、そういう意味で、この議会では市長のその点の思いを、こういうふうに林業を活性化させていきたいというの。あれば、当然あると思うので、市長の思いを聞かせていただきたいというふうに思います。
企画振興部長
市長の思いを受けまして、我々仕事をしておりまして、市長・副市長ともしっかり協議をする中で、先ほど申し上げましたように長期総合計画も盛り込んでおりますし、林業振興プランの方も現在策定をしているところでございます。その市長の思いの中で言いますと、先ほども言いましたように、林業の基幹産業化をしっかり進めていきたいというふうな思いをしっかり盛り込ませていただいております。具体的には、重点プロジェクト事業をいくつか取りまとめて提案をさせていただこうというふうに思っております。これまでにはない新たな取り組みでありますとか、既存の事業を強化・拡大するようなこと、それから林業施策における基幹となるような取り組み。こうしたものを重点プロジェクトということで、2つの施策の柱の中にそうしたものを入れてですね、基幹産業化であるとか、目指すべきところをですねに向けての取り組みを進めていきたいというのをお示ししようと思っておりますので、先ほど期待してくださいというふうに言っておりましたけれども、その中で説明をさせていただきます。で、大まかに言いますと、市長の思いは先ほど申し上げたようなところにしっかり盛り込んでですね、取り組みを進めていこうというふうに考えておりますので、ご理解いただければと思います。
福山権ニ議員
議長、できれば市長に質問し、今、部長がお答えになりました。もう市長の思いを十分に斟酌して答弁をされたというふうに思います。ただ、長期総合計画を作る前段の議会に当たって、市長が就任されて相当の期間も経っておりますし、そういう意味で、できれば議長、市長の言葉で答弁をお願いしたいと思うんですがいかがでしょうか。

市長、答弁できますか。
事務担当副市長（木村洋）
ご答弁申し上げます。議員の、市長の思いを直接お聞きになりたいというお気持ちは非常によく伝わってきているところでございます。それらを踏まえて、担当の方から説明をさせていただきましたが、これは原則的なことになるかと思いますが、答弁者の指定は執行者側、市長が決めるということになっておるので、議長に求められるのもちょっとどうかなというふうに思うんですけれども。我々は先ほどからずっと答弁しておりますように、例えば林業振興プランを一つ作るにしても、まずはやっぱり市長の思いがどういうとこにあるのかというところから施策を紐解くということをやっております。そういう中で、やっぱり林業を活性化していきたいといった時に、今回2つの柱を立てたというふうにご説明申し上げましたけども、こうしたところにやっぱり市長の思いが詰まっておりまして、一つはやっぱりしっかりとした基盤となる産業を作る。これは稼げる林業を作っていくというところが非常に大事なので、そのためにじゃあ何をやるべきかというところについても、今はちょっとまだ具体的に申し上げられませんが、近日中にお示しできますけれども、こういったことをやればそれが稼げる林業に繋がっていくというようなところも提案、市長の方から話を聞いて、それを具体化するということをやっておりますし。一方で、森林が持っておりますのはそういった機能だけではなくて、公益的な機能も持っておるというようなことがあって。じゃあ単純にその産業として成り立てばいいというところだけにスポットを当てるのではなくて、もっとちゃんとやっぱり林業に公益的な機能がある、それを林業を続けながら守っていくというところも、しっかりやらないと庄原にある全体の大きな貴重な森林は守っていけないというようなことも、市長の方から指示をいただき、それを2つ目の柱に立てたということでございます。
さらに、その2つの柱を立てた上で、じゃあその2つの施策ごとにどういうところを目指すのかという目標も今回明確にしてお示しをするようにしております。繰り返しになりますけれども、そういったところを市長のもとで一丸となって取り組んでおりますので、その成果として近日中にお示しできると思いますから、ぜひそれを評価をいただき、なおかつそれをプランを今度は具体的に進めるためには予算という形に昇華をさせていくことになります。その昇華をさせた予算というのは、来年度当初予算で議論いただくことになりますので、そういったところもしっかり見ていただければというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたい。以上です。
福山権ニ議員
だんだん質問するのが難しくなるんですけども。もちろん市長自身の答弁でなくても、皆さんの答弁で、もちろん十分だとは思いますけど。ただ、しつこいようですけども、この議会というのは非常に重要な時期だというふうに思います。さらに、この議会の場で市長が市民に対して思いを率直に表明をされるということについては、非常に大きな意味があるだろうというふうに思います。
市長が林業について公約通りに大きな柱にする。おそらく市長がこれをやるんだというふうに主張される時に、あるいはですよ、いや市長、それはこれがあるからこれができるからできませんよということ、要するにこの大きな庄原市の行政の中で、市長のカラーを出してこれだというふうにやってリーダーシップをする。ということは非常に重要でもありますし、大事なことだというふうに私は思ってますので。庄原市の職員、大変優秀ですから。市長が例えば林業を柱にする、それに渦巻きながら人口を増やしたり、教育を充実させたり、農業のイノシシ対策したり、この課題で回すんだということを市長がはっきり明言されると、庄原市の行政、職員はそれを十分に受け取って、大きな庄原市の流れとして、庄原市で林業に携わりながら豊かな生活を送ろうという若い層も、実は呼び込めるかもしれません。そういう意味で、なかなか難しいとは思うんですけども。この巨大な組織を能力がある組織を、市長の思いで私はこれがやりたいと、市民の皆さんにもこれを中心にして回すから、ここの分はぜひ皆さん我慢してこれやってくれ、ただこれをやりながら発展をさせようという具体、明確なシグナ

ルが、どっちかというとこれまではあんまりなかったような気がします。それで、市長が選挙公約でされたこのことを見ながら、これは素晴らしいと。決して行政を批判したり市長を批判しようじゃありません。今の答弁が不十分だという気持ちはさらさらありません。ただ、市長がこの庄原市行政を、今大変厳しい時に、自分の能力を最大限発揮してこれだというふうに提案されると、それは市民として大きな期待と姿勢に協力をする、お互いに力を出そうという力がそこから生まれてくるんではないかと。そういう意味で、市長は私はこう、まあこういうふうにやると、いうことを宣言された方がいいのではないかというふうに思うんですよね。
ちょっと追加しますけど、市長も金剛組、人ですよね。宮大工の。1500年の歴史がある企業で。ずっと全国の神社とか仏閣とか専門に修理する。今年は伊勢神宮の建て替えが20年で。で、これを専門にする金剛組、本社は大阪ですけど、しかし広島にも支店がありますが。そうすると聞いてみますと、これは友人からの情報ですが、檜でも杉でも膨大なもんがいるんですよね。だから庄原市にあるたくさんの優秀なものを、森林整備計画に乗っ取って整備をして、それを商品として確実に販売するという力。これをどうやって作るかというのも、今の資本主義社会では当然に商品社会ですから。もちろん全国にいろんな木材を管理してるとこありますけど、庄原市もこれだけ広大でこれだけ優秀な檜、杉もある。これは林業振興計画の中でも分析をされておりますけども、そういうものを、ここは一つ森林組合の皆さんとも共同しながら、庄原市もそういう素晴らしい木材、商品が流通するように、優秀な金剛組のような業者ともお互い協力し合いながら、そういう材料、商品を供給する。それで膨大な利益を林業関係から生み出そうというようなことなんかも、楽しいというか夢があるんではないかというふうに思うんですよね。一例を言いましたが、だからそういう事例もありますし、庄原では林業でものすごくその発展性がある。繰り返し申しますが、西条が燃えた時に、あそこの屋上から庄原市の山を見切って、いいもんがたくさんあると。しかし、持ち出しができない、そういうことを聞いたことがあります。この林業振興計画の中でも林道を作るとありますが、林道を作り保護するのはいいんですけど、問題は活性化というのは木を育ててそれを売らなきゃいけませんから、そういうシステムをどう作るかということも検討されているんではないかと思いますが。そこらも含めて、市長の思いを市民にここから高らかに宣言をされるということが、庄原市政の大きな流れを作るというふうに思いますが、どうでしょうか。市長のお声が聞きたい。
議長（桂藤和夫）
不規則な発言、静かにしてください。答弁。
市長（八谷恭介）
はい、福山議員ありがとうございます。もちろん今、議員のご指摘の通り、前職森林組合組合長させていただいておりまして、林業について一通りの知識は持っていると思っております。で、もちろんこの林業ですね、振興といいますか、この計画をこれまでの柱の中に据えて進めていきます。しかしながら林業大変時間の掛かる産業でありますし、そもそも今おっしゃって、図らずもおっしゃっていただいたような需要をどのように作るかっていうのはですね、これは国も県ももちろん市も、これまでもう大変一生懸命取り組んできている中で、そもそも10%しか国内の国産材の需要がなかったところが今現在大体40%近くまで上がってきとるという状況です。これがこれ今後ですね、もっともっと増やしていくというようなのが国策としては当然なってくるかと思いますけれども、この日本全国の人口減少の中でですね、住宅需要そのものがどんどん下がっているという現状もございます。そんなような中で、いかにこの林業を組み立てていって作っていくかということは、大変これまで本当に庄原市の方も一生懸命取り組んでこられた中でのことになります。ですので、当然パフォーマンス的に大きなことを言わせていただくのは比較的にできるかもしれませんけれども、やはり木を植えて切るまでに60年近くかかります。それが今実際に私たちの先代たちは40年でそもそも計画をしておったものがですね、これが40年では売れないということで60年近くなり、80年になり、という風にどんどん伸びてき

とるのが現状でございます。そんなような中で、おっしゃっていただいたようなこう林業というものを活性化していくというような現状であると認識しておりますので、やはり基盤となっていくような、基本的に時間はかかりますけれども、一番大事なところに手をつけるために、林業振興課の方で先ほど答弁させていただいたような2本の柱を立てて、時間をかけながらやっていくという風になってこようと思っておりますので。林業も農業、林業それから畜産業もやはり庄原市にとって大事な基幹産業であり、それを基盤産業にしていくという風に思っております。これは計画的に時間をかけて丁寧にやっていくことになっていくと思っておりますので、林業も、農業・林業、それから畜産業も、やはり庄原市にとって大事な基幹産業であり、それを基盤産業にしていくというふうに思っております。これは計画的に時間をかけて丁寧にやっていくことになっていくと思っておりますので、その辺についてしっかりと今後の長期総合計画の中にも示させていただきますので、ご理解いただいて、市民の皆さんと共に取り組んでいきたい、このように考えておりますので、よろしくお願いいたします。

2点目：人口減少対策の組織体制について

福山権ニ議員
市長から直接答弁をいただきました。なかなか庄原市で働いてよかった、庄原市に就職して1ヶ月、2ヶ月、1年働いたけども、やっぱり庄原市が一番ええと。行政マンがこの市長についていこう、これを回していこうという中市職員の、仕事をする楽しさとか連携とか、対市民に対する説得力というのが生まれていくということで言うと、どこでもそうかもわかりませんが、一つの大きな転換点にある時期だろうと。日本全体もそうですが、そういう意味では、わが庄原市が持っている有効な資産を中心に、働く者も市民も夢を持って突き進むと。そのためには、八谷市長が林業関係のプロフェッショナルとして、この庄原市政のトップに立たれたということは、非常に夢のあることでございますし、あちこち視察して行きましても、農業出身の農協出身の町長がいるとか、そういう分野で非常に活性化して全体が前進するということもよく見てきましたので、ぜひこの公約にあるような中身が、これから副市長がおっしゃったように、ここについては提案があるし、私たちも十分に研鑽をしていきたいと思いますが。ぜひ今市長がおっしゃったように、難しいことはあったにしても、市長のリーダーシップに大きく期待するところでございます。
それでは、次の質問に行きたいと思います。次の質問はですね、人口減少に対する問題です。本市は人口減少対策を市の最重要課題と位置づけ、各種施策に取り組んでまいりましたが、2025年10月31日現在、人口は3万488人という風に公表されておりまして、人口減少が続いております。策定中の第3次庄原市長期総合計画では、人口減少対策をどのように位置づけ、どのような市行政組織形態で取り組もうとされているのか、市長の見解を伺います。

市長（八谷恭介）
ご質問にお答えいたします。国は減少が続く人口問題を総括し、新たにまとめられた地方創生2.0において、引き続き人口減少の抑制に努力するとともに、人口規模が縮小しても社会経済が機能し、地方の稼ぐ力や新たな魅力の創出により、暮らしをより豊かに向上させるビジョンを掲げています。現在策定を進めております第3次長期総合計画では、この地方創生2.0の考え方を踏まえ、将来の人口規模を推計し、その展望を踏まえた上で人口減少社会に適切に対応する視点を持つこととしております。そのため、人口を達成目標とするのではなく、市民が安心して暮らせる環境づくりと活力ある地域の実現を追求するとともに、地域を支える基盤産業の育成や官民連携による成長戦略を打ち出すことを重視いたしております。
加えて、人口は最も総合性の高いバロメーターであることの認識のもと、長期総合計画に掲げる

個々の施策を底上げし、確実に成果を生むことが結果として人口減少の抑制という成果に繋がっていくと考えております。したがって、組織体制の整備につきましては、政策・施策が目標指標に照らして想定通り進捗しているか、改善すべき点は何かなど、適切にPDCAサイクルを回し、施策を推進するための体制となるよう検討してまいります。
福山権ニ議員
市長、これまで庄原市は人口の減少率がとどまったとか、人口が増えつつあるとかいうような総括はしてないですよね。ずっと減ってると。なぜか、なぜかということでみんな悩んできて、行政も非常に悩んでおる。それに対して、全力で立ち向かおうという庄原市の行政のスタイルがあるというのはよくわかりますけど。これまでの総括といいますか、考え方として、その組織形態がどうかというふうに質問したんですけども。今の組織形態の中で、誰が人口対策を中心に、どこの課がやっているのかということになると、ある程度こう全部の課がやってるんだと言いながらも、なかなかその抽象的にはそうですが、各課の連携をしたり中心的にそれを集約するということが、非常に薄いんではないかというふうに私は考えておりますので。今の組織体制の中で、総務課で言うと、総務部で言うと7つの課があるんですか。7つとか6つとか5つの部長さんが持っておられますけど、これは大変だろうと思います。だからせっかくやろうとしても、実際に行動することのパワーをどこかで集約し、また再生産をするという組織的な対応がいるんではないか。
今度、今、副市長は1名になっておりますが、これは非常に有効か、今の行政の中では非常に1名といいと思うんですけど。これまでの経験から考えてみて、非常にいいと思うんです。それと、しかし副市長1人が全課を全部網羅して指導するっていうのは、なかなか、指導するために、各課に動きを集約をする、集約しさらに指示を与える。市長・副市長の指示によって動く一つの専門的な機関、もちろん少数で結構ですが、1名でもいいんですけど。そういう担当を置いて、それが有効に作動する、全課、全体を見通して調整をしながら、この人口問題を立ち向かうというようなことが、必要ではないか。来年度からどういう組織形態にするか分かりませんが、あまりにもそれぞれの部の部長のところで、あまりにもたくさんの業務があって、非常に良く頑張っていらっしゃいますけど、より有効な組織体制にするために、市長・副市長の次に、そういう調整官的なものが必要ではないか。前回そういうこともやっていましたけど、なかなかうまくいかなかったという原因はよくわかりませんが、そういう調整ができる部署をぜひ作った方がいいんではないかという風に思って組織形態について質問をさせていただきました。そういうことについては、市長考えはないですか。検討を一つ素材になりませんか。
企画課長
ご質問にお答えをいたします。来年度に向けた組織構成につきましては、まず第3次の長期総合計画の施策を確実に進めるための体制を取るべきということから、現在内部で調整、検討中というところでございます。施策の方につきましては一定程度固まってまいりましたので、これをしっかりと回していくための組織体制が今度求められてくるかなというふうには考えております。
議員の方から色々ご提案といいますか、投げかけをいただきましたけれども、まず人口減少対策につきましてはいわゆる「人口減少対策」という単一の取り組みというものはございません。これは議員も同様のご認識だというふうに思います。様々な政策・取り組みの積み重ねによって、その成果として一つ、いろんな指標というか数字として現れてくるものの中の最も大きなものが人口であるという形で認識をしております。そうした考え方で申しますと、それぞれの所管がそれぞれの業務を果たしていく中で、それが効果をしっかり打ち出せれば、結果として人口が抑制されるであるとか、増えることも非常に難しいことではありますが、理論的にはそういう形になろうかと思います。
そうした取り組みを、今回の長計では見える化というか、どの部分がしっかり効果を上げてて、どの分野がもう少し努力が必要ではないかといったところを把握をし、改善をし、また進めていく改善した

ものを進めていくということが重要だといったところが、先ほどの市長答弁のPDCAのところに現れているというふうに考えております。
そうした動きといいますか、取り組みを全体を俯瞰して見るような部署も、場合によっては必要であるかもしれません。こうしたことにつきましては、今後内部で検討をしてまいりたいと思いますし、それがどの階層に位置づくか。本市につきましては部制をとっておるということから、部長にその任があるのかもしれませんし、そうしたことも含めてこれからその施策をしっかりと回していくための体制を構築してまいりたいというふうに考えております。
福山権ニ議員
行政組織に関して議会の方がどうこういうことは越権行為であるというふうには思いますけど。こうまで意見を申し上げることが議会としては大事だろうと思って発言をするんですが。今の答弁でいいんですけど、納得をするんですけども。組織を活性化するのに、国とか県とかいうところから、実戦部隊の取りまとめについては、庄原市の行政のやり方、歴史、様々な教訓を身につけた、今の庄原市の職員の中からそういう一つ全体を俯瞰をするようなポストを与えて、全体を調整する。というような視点で考えたらどうか。これまで県から国からというのがありましたけども、なかなか市の現状の歴史的な経過の中で、ものを考えるってことがなかなか難しいんではないかと思いますので。もし検討をされるようなら、そういう視点が必要だろうというふうに考えております。
ぜひ市長、そういうこともぜひご検討いただければというふうに思います。ぜひこの10年間の長期総合計画が始まろうというこの時に、いろんな意味で議論を深めて、今の市長の選挙公約をぜひ前進をさせてもらう。そのことが庄原市行政、中身、組織形態も含めて、議会も含めて、市民全体が一つの戦略的思考に到達できるといいますか、それをお互いの認識としてやっていくということになると思いますので、ぜひそのように検討いただけますことをお願い申し上げまして、私の質問を終わります。
議長（桂藤和夫）
以上で福山権ニ議員の質問を終わります。この際、暫時休憩いたします。再開は午前10時50分といたします。

第2ステップ：一般質問のまとめ（詳細分析レポート）

林業振興と人口減少対策に関する一般質問のまとめ（福山権ニ議員）

令和7年12月定例会において、福山権ニ議員は、策定中の「第3次庄原市長期総合計画」を軸に、八谷市長の政治姿勢と具体的な実行体制を問うた。特に市長の専門分野である林業の基幹産業化と、長年の課題である人口減少への組織的対応について、鋭い議論が交わされた。

1. 議論の前提となる市の現状と取り組み

市は現在、令和8年度から始まる「第3次長期総合計画」の策定を進めている。

- 将来像:「安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来がつながっていく街」を掲げている。
- 林業の現状: かつては薪炭や用材生産で地域を支えたが、近年は生産額が他の産業に比して縮小。現在は「森林整備計画」に基づき管理を行っている。
- 人口対策: 令和7年10月末時点で30,488人。国の「地方創生2.0」に基づき、数値目標の達成よりも「暮らしの質」と「活力ある地域」の追求にシフトしようとしている。

2. 議員が提示した現場の現状と調査結果

福山議員は、長年の政治経験と独自の視点から以下の点を指摘した。

- 林業資源の潜在力: 庄原市には広大で優秀な檜（ヒノキ）や杉（スギ）が豊富にあるが、搬出システムや流通・販売力が弱く、資源を十分に利益化できていない。
- 過去の計画の既視感: 歴代市長が同様の林業振興を掲げてきたが、目に見える大きな変革が起きていない実情。
- 組織の縦割り: 人口減少対策が各部署に分散しており、責任の所在と実行力が不透明である。

3. 議員の質問と市への訴えの要点

- 市長のカラーの鮮明化: 森林組合組合長を歴任した「林業のプロ」である八谷市長に対し、官僚的な答弁ではなく、自身の公約である「稼ぐエンジンとしての農林畜産業」への情熱と独自の戦略を自身の言葉で語るよう強く求めた。
- 「施策の幹」としての林業: 林業を単なる環境維持ではなく、市政の最優先事項（幹）に据えるべきだと主張。
- 実効性ある組織体制: 形式的なPDCAではなく、市長直轄の「調整官」などを置き、全庁的に人口減少へ立ち向かう「戦闘部隊」を編成すべきだと提案。

4. 議論が活発になった場面

最も議論が白熱したのは、福山議員が市長の「自身の言葉での答弁」を求めた場面である。福山議員は、市長が選挙時に掲げた「すぐにでもできるのは農林畜産業」という公約を引用し、1500年の歴史を持つ宮大工集団「金剛組」を例に挙げながら、庄原の銘木をブランド化し全国に流通させる夢のある戦略を熱弁。
これに対し、当初は担当部長や副市長が事務的な補足に終始したため、福山議員が「市長の言葉で聞きたい」と議長に仲裁を求める一幕があった。最終的に市長自らが答弁に立ち、林業の長期スパン（60〜80年）という難しさと、住宅需要の減少といった厳しい外的事実を認めつつも、基幹産業化への決意を語ったことで、議論は一定の収束を見せた。

5. 市の答弁と今後の方向性

議論を通して示された市の最終的なスタンスは以下の通りである。

- 【回答】: 林業については「基幹産業化」を明確に目標に掲げ、公益的機能維持と産業振興の2本柱で進める。人口減少については、単なる数値目標ではなく「暮らしの満足度」をバロメーターとする。
- 【今後の対応】: 仮称「庄原市林業振興アクションプラン」を策定し、重点プロジェクト（新規事業の強化、基幹的取り組みの拡大）を来年度予算案に盛り込む。組織体制については、第3次計画を確実に推進するための最適な体制を内部で検討・構築する。
- 【最終的な市のスタンス】: 八谷市長は、自身の専門性を生かしつつも、冷静に市場環境を分析。長期的な視点での「丁寧かつ計画的な振興」を強調した。一方、福山議員が提案した「内部職員による調整官ポスト」の設置については、検討の余地を残した。